

P-3-8

高齢者や衰弱者の膵臓癌における、 低温岩盤浴療法の有用性について（続報）

○篠崎 洋二¹⁾，上者 郁夫²⁾，笠原 真悟³⁾，佐野 俊二³⁾，荻野 景規⁴⁾

医療法人篠洋会 篠崎クリニック¹⁾，岡山大学医歯薬学総合研究科 保健学科²⁾，
岡山大学医歯薬学総合研究科 心臓血管外科³⁾，岡山大学医歯薬学総合研究科 公衆衛生学⁴⁾

【目的】

近年、膵臓癌の早期発見、早期治療が外科的治療において有効であることが示されているが、外科的治療や化学療法の適応のない高齢者や衰弱者の膵癌治療は極めて困難である。我々は第15回日本補完代替医療学会（2011年）において、低温岩盤浴療法の膵癌、特に早期の膵頭乳頭部癌に対する治療効果や延命効果の可能性を示唆した。今回、我々はさらに若干の症例を追加して、高齢者の膵臓癌の治療効果や延命効果、緩和ケアにおける有用性について報告する。

【方法】

15例の膵臓癌について低温岩盤浴療法を施行した。花崗岩系となる“青龍石”の岩盤を用いて、36℃ - 39℃、40分程度の低温岩盤浴を原則、週4回以上施行、進行癌に対する効果をCT、MRIにより判定した。

【結果】

膵臓癌15症例のうち5例（33%）がPR、2例（13%）がMR、2例（13%）がNCの効果判定となり、PDは6例（40%）であった。このうち比較的早期の膵頭部癌4例すべてがPRの効果判定が得られた。平均3.0年（最長は5.0年）の生存期間が得られた。これに対し膵体尾部癌は平均0.8年有意に短かった。

【結論】

低温岩盤浴療法は高齢者や衰弱者にも安全に適応可能であり、特に青龍石は膵頭部癌に対する有力な治療法と考えられた。混合診療の緩和が提案される近年、低温岩盤浴療法は衰弱者や超高齢者における癌の治療及び予防法として有力な方法となると思われる。また、膵頭部癌は早期に腹痛などの症状を来すため早期発見が可能であり症状の出にくく発見時にすでに進行している膵体尾部癌に比して、有意に予後良好であると思われ、CT等による早期発見の重要性が示唆された。